

1学期の評価を終えて



静岡県三ヶ日中学校 大谷正敏

1 はじめに

目標に準拠した評価(絶対評価)が導入された昨年度の1学期に不安や焦燥感をつのらせたのは私だけではないと思う。一刻も早く評価規準や評価計画を確立しようと資料収集に当たるのだが、頼るべき論には出会えなかった。多くの研究者や実践家によって検証がなされている指導法に比べ、評価に関する先行研究は乏しい。

では、今年度の1学期はどうだったか。慣れがもとで多忙感はいくぶん薄らいだものの、不安は根強く残っている。これが実感ではなかるうか。その最大の原因としては、新しい学力観の根底を成す「関心・意欲・態度」の評価をどのように行ったらよいかに光明を見出せていないことが推察される。ここでは、この第一観点の評価に絞って自己の実践を紹介してみたい。

2 関心・意欲・態度をどのように評価しているか

教育課程審議会が指導要録の様式について審議した際、第一観点の評価が難しいという学校現場からの声が届き、観点から省くべきではないかとの意見が出されると聞いている。私たちは観点別学習状況の評価に関する知識や技術を10年以上にわたって蓄積してきた。それなのに、なぜ第一観点の評価に苦心しているのでしょうか。

理由としては、授業における評価を評定へと結びつけていくには数値化が不可欠であるが、関心・意欲・態度をいかに見取って数値化したらよいか不明確である点、その数値の客観性に自信がもてない点、観察法や質問紙法等を用いて把握する学習意欲の傾向は、必ずしも安定しておらず、心身の状態や学習内容に応じて様々に変化してしまう点、そして学習意欲は知識や技能と違い、教えて身につくものではなく、育てていくものであり、引き出すものである点等が考えられる。

ここで改めて、学習に対して意欲がある、あるいは意欲が出てきたとはどのような状態をいうのか、具体的な姿を思い浮かべてみたい。それは、

- ・疑問や問題意識を抱いている。
- ・学習のめあてをもって主体的に取り組んでいる。
- ・楽しみながら取り組み、やりがいを感じている。
- ・学習成果を他に伝えようとしている。
- ・新たな問題意識を抱いている。

などであろう。このように考えてみると、子どもの関心・意欲・態度を評価する際には、一面的な評価や一過性の評価はふさわしくないとと言える。北俊夫はこの点について「子ども一人一人の姿をさまざまな場面で、さまざまな方法(手段)を活用して、多面的にとらえるようにするとともに、継続的、累積的に観察することがポイントとなる」としている(引用文献)。この点を重視すると同時

資料1 平成15年度1学期 評価計画

観点	具体的な評価の対象	配点(%)	A B Cの基準	評定内比率
関心・意欲・態度	○授業への取り組み	65	A 80% B 60% C 80%未満	20%
	・ 授業態度(観察)	[5段階] (20)		
	・ 挙手回数(自己評価)	[5段階] (5)		
	・ 自己評価(毎時間の自己評価)	[5段階] (5)		
	・ 自己評価(学期末の自己評価)	[5段階] (5)		
	・ 相互評価	[5段階] (5)		
	・ ワークシートへの取り組み	[5段階] (10)		
	・ 5問テスト	[5段階] (15)		
	○社会的事象への関心	35		
	・ 論評ノート	[5段階] (20)		
・ 定期テスト(中間2点、期末2点)	[3段階] (15)			
思考	・ ワークシート 「オリエンテーション」		A 80%	

に、生徒一人一人がもっている個性も様々である点も考慮して、資料1のような多様な評価方法を用いることにした。

自己評価を評価・評定に組み込むことに対しては、次のような反論が予想される。自己評価は主観的であって客観的ではない。評定に結びつくと分かれば生徒は自身に対して甘い診断を下すものである。これらには妥当性があるが、教師による評価のすべてが客観的かと問われれば、そうだとはい切れるものでもない。また、相互評価の結果は、個々の自己評価の基準設定に有効に機能することから、両者の併用により自己評価の信頼性の向上が期待できる。これらのことから、あくまでも観察を柱としながらも、教師による評価のみでは生徒の内面の達成についての評価が困難であるとして、自己評価を取り入れることにしたのである。

自己評価は、自己評価表(資料2)をもとに行わせている。自己評価表は単元毎に1枚(A3判)であり、生徒が単元の学習内容を見通せるように、

1時間毎の学習内容・目標を列記してある。これを授業では、

- ・単元導入時に「単元の学習内容を見通す事前学習」を実施し、この授業で抱いた疑問を「事前学習」の欄に記入させた後に、当単元の自己目標を設定させる。
- ・毎時間の終末で、4観点及び自己目標に対する自己評価(資料2中の①~⑧)をさせるとともに、本時の振り返りについて自由記述させる。
- ・授業後に回収して学びの状態をチェックし、必要があればコメントを加える。生徒には次時までに返却する。
- ・単元の最終授業では、自己評価欄を集計させた後、感想と自己目標に対する振り返り及び身に付いた内容を記述させる。

というような手順で用いている。

相互評価ではクラス名簿が載った評価表を用い、授業でみんなのためになる発言をする、追究活動を粘り強く行う、友達との話し合いを意欲的に行う等の観点に基づいて該当する生徒の欄に○をつ

資料2 自己評価表

自己評価カード		経済って何だろう (教科書38~47ページ)		2	組	28	番	氏名	
単元の目標 ◎ 従来の企業や政府の一員として、また政府の経済活動に影響を与える国民の一人として、よりよい経済生活を送ろうとする態度を養おう。 ◎ 価格のはたらきに着目しながら、市場経済の基本的なしくみについて具体的な例をあげて説明できるようにしよう。									
事前学習	もっと詳しく知りたいと思ったことを書き留めよう。 ①はすでに企業から学んだこと。 ②のマークが自分が見えなくて、昔の市場から見えるところ。 ③と④は②の所解のマーク。⑤は②の近くにあるが、	◎ ③→実は①-③はなく、④は、 ◎ ④ 雑所得のうち「雑所得」です。			◎ 自分で粘り強く調べられるようになりました。 ◎ ①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕、㉖、㉗、㉘、㉙、㉚、㉛、㉜、㉝、㉞、㉟、㊱、㊲、㊳、㊴、㊵、㊶、㊷、㊸、㊹、㊺、㊻、㊼、㊽、㊾、㊿				
1 事前学習 「経済とは？」	ごつかひの中の経済を通して、身近な経済活動に興味や関心を抱く。「経済」という語の意味を理解する。	0	7		B	B	B	B	授業が始まって、また新しい言葉がたくさん出てきた。今の時点ではまだ覚えていないから、少し復習したい。自分の家が産地だと初めて知って、気持ちはいいけど、思いは少し。粘り強く調べたので。
2 私たちと経済	ごつかひも限られた資源から選択している現実を気付き、商品の流暢に目をつける。	1	6		B	B	A	B	今日は前回より粘り強く調べたと思えます。よく分からなかったところは、少しづつ復習していきましょう。消費や生産について、以前より分かるようになったので、粘り強く調べたいです。
3 価格のはたらきと経済を考える	市場における需要と供給によって変動する価格に注目し、市場経済のしくみを考察する。	1	0	3	B	C	B	A	今日は教科書のページをいろいろと読んで、ごつかひで「分る」分るはなくなりました。これから先生の話をしっかりと聞いて、必要な情報を集めよう。よく分からなくなるので、粘り強く調べたいです。
4 自分の家の家計を知ろう	家計の収入や支出、貯蓄の目的などを理解する。	1	12	4	A	A	A	B	今日は家で家計帳をみることで、ごつかひで何をどうやって買っているのか、自分で調べてみました。お父さんの収入や支出、貯蓄の目的なども、よく分りました。粘り強く調べたいです。
5 さまざまな企業の活動	経済の主要の一つである企業の活動に興味・関心をもち、その活動の目的が利潤の追求であることを理解する。	2	5	5	A	B	A	A	今日は自分で調べて、ごつかひで何をどうやって買っているのか、自分で調べてみました。お父さんの収入や支出、貯蓄の目的なども、よく分りました。粘り強く調べたいです。
6 政府の経済活動と経済の前提	限られた資源の効率的な分配をめざす政府の経済活動の役割を理解する。家計、企業、政府それぞれの関係を図で表す。	0	5		A	A	A	A	今日の授業で、今までで一番理解できた。経済の前提で、ごつかひで何をどうやって買っているのか、自分で調べてみました。お父さんの収入や支出、貯蓄の目的なども、よく分りました。粘り強く調べたいです。
合計		5	43	12	18 15 14 14 6 15 15			3	◎ 単元の目標に寄り添ってきました。 ◎ 進んで調べ、発見できました。 ◎ 先生の経済活動の意見を真剣に聞きました。 ◎ 積極的に意見交換しました。 ◎ 粘り強く資料調べることができました。 ◎ 「なぜ疑問」を解くことができました。 ◎ 言葉やグラフ、資料などの内容を読み取ることができました。 ◎ 学習した内容(市場経済の基本的なしくみ、企業の活動目的、政府の経済活動の役割)を説明することができました。
感想と自己目標に対する評価	今まで授業を受けてみて、私はいつか社会の検査になるといって、なあと、思っていて、検査の時に全然身にならなかつたと思うけど、今は社会の検査が楽しい、大切なこと。頑張ることができるようになりました。資料などが、粘り強く調べられるという目標は、いつか達成したいです。自分ができるようになったので、粘り強く調べたいです。								
この単元で身に付けたこと	今までお金のやりとりが全然分からなかつたけど、たくさん勉強して自分でも分かるようになった。また、私の家は、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さんが、農業をやっていて、その中で、お金のことを初めて知りました。自分でも考える事、目標をたて、頑張りたいです。								
まとめ									

けさせている。さらに、この人のこんなところを取り入れたいと感じたことを自由に記述させている。

「論評ノート」とは、自分の興味・関心に従って選択した新聞記事に対する、感想・疑問・意見等をまとめさせるA4判のレポートである。これは、社会的な思考力や資料活用能力を評価する際の有用な資料でもある。

「5問テスト」は、前時までに学習した重要語句の定着を主眼として、授業の冒頭で行う一問一答式のテストである。これは第四観点の資料となるが、取り組み状況を第一観点にも活用している。

3 授業における「成長」を実感させる評価とは

「〇〇ができるようになった」「〇〇を使えるようになった」などは、授業における子どもたちの向上的な変容である。この実感があるときに、授業で意欲が育つのである。このような実感を授業で子どもたちにもたせるにはどうしたらよいのだろうか。

一つは、自己評価表の活用である。自己評価表には教師のための評価資料という側面もあるが、本来は子どもの内面理解を深め、その学習活動を支援するために用いるものであるし、子ども自身の自己学習力を向上させるためのものである。

前ページの自己評価表を再度御覧いただきたい。この生徒は当単元における「自己目標」を『自分で粘り強く調べられるようになりたい。』と設定している。これに対し、単元末の「感想と自己目標に対する評価」では、まず社会科の授業に対する意欲が向上したこと、そして課題追究への意欲も徐々に向上していることが述べられている。また、「この単元で身に付けたこと」には、学習課題に対する予想立てや発表ができるようになってきたことが綴られている。さらに文末からは次の単元への意欲がうかがわれるが、これは以上のような成長の実感もたらしたものであると考えられる。

二つ目は、学期始めと終わりなど、時機をとらえて自己の成長を確認させることである。本校では、その機会を学年当初と各学期末に設定し、社会科への関心・意欲(資料3中のA)、社会科の学び方(同B)、社会科の授業への基本的な取り組み

(同C)の3点を自己評価させている。資料3の生徒は地理や歴史的分野の学習が大嫌いだ。毎時間の自己評価でもCばかりが目につく有様であったが、1学期末の自己評価では明らかに自己の成長を実感し、BSEが町の基幹産業である肉牛の肥育に及ぼした影響を追究したいと表明するまでに意欲を高めているのが読み取れる。

資料3 学期末の自己評価表(一部)

5 1学期であなとはどんなところが成長しましたが、これからどんなことを課題にして取り組めば、もっと自分が成長すると思いますか。自己評価ふまえて、自分をもっと伸ばすためには、どんなことに心がけられよいか、考えよう。そして意味も、2学期にどんなことをがんばればよいか、具体的に考えよう。

4月と7月を比較してみても少しだけ、教値が上がった。4月の時は本当に社会が大嫌いで興味全くなかった。たいてい、授業をや、いってうちにな。レポつ考えかかわって来た。授業中の挙手回数も4月より多くなりました。夏休みはBSEの自由研究をしたいと思います。2学期はもっとたくさん発表して、友達、先生の意見をしっかりと聞けて授業をうけたいです。

4 今後の課題

子どもたちに返らない評価、授業改善に結びつかない評価は「評価のための評価」と言われてもしかたがない。自己評価表を交換しながら次時以降の学習内容を常に検討したり、必要が生じれば、単元の学習過程そのものに手を加えるようにしたりしている。評価の主たる目的は、子どもたちのためによい授業を行い、彼らに確かな学力をつけることである。この点を常に意識しながら、教師にとっても無理のない効果的な評価方法を追究していきたいと考えている。

【引用文献】北俊夫(2003):「最大の評価方法は教師の観察」『授業研究21』第41巻6号、明治図書